

W59b 全天 X 線監視装置 MAXI のデータ公開について

小浜光洋、杉崎睦、三原建弘、中川友進(理研)、上野 史郎、松岡 勝、川崎 一義、富田 洋、鈴木素子、石川 真木 (JAXA)、根来 均、中島 基樹、石渡 良二、三好 翔、小澤洋志 (日本大)、河合誠之、森井幹雄、杉森航介 (東工大)、常深 博、木村公 (大阪大)、吉田 篤正、山岡 和貴、中平 聡志 (青学大)、上田 佳宏、磯部 直樹、江口 智士、廣井和雄 (京都大)、山内誠、大休寺新 (宮崎大)、他、MAXI チーム

全天 X 線監視装置 MAXI は、国際宇宙ステーションに搭載され従来の全天サーベイ装置である XTE/ASM に比べ数倍良い感度を達成した X 線源の全天モニタである。これによって銀河系外の天体までが観測対象となり、系統的に多数の天体の時間変動を追うことが出来るようになった。MAXI に電源が投入されたのは 2009 年 8 月のことで、以降 MAXI は地球周回軌道周期の 90 分毎に全天を観測し続け、現在まで幾つかの突発天体事象を ATEL や GCN に報告してきた。また 12 月からは理化学研究所の MAXI ホームページより、既知の天体に関して MAXI が取得したライトカーブ等の定例公開を開始している。12 月現在では 50 天体程度であるが、徐々に増やして行き最終的には 1000 天体程度を 1 日程度の遅延で公開する。このために、テレメトリデータの取得から自動的に X 線点源の変動解析処理を行い、アップデートするシステムを構築している。本講演では、データ公開システムの概要と現在公開されている観測データについて紹介する。